

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物

- 2面 原水爆禁止世界大会
- 3面 会員拡大のアピール
- 4、5、6面 非同盟諸国首脳会議報告
- 7面 列島 AALA
- 8面 私と AALA など

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2016年10月1日 No.675

バンドン精神と国連憲章の平和条項を生かし、 平和・主権・連帯の強化を誓う



第17回非同盟諸国首脳会議 inベネズエラ

第17回非同盟首脳会議は、9月13日から18日まで、ベネズエラのマルガリータ島で開催されました。小松崎栄日本 AALA 代表理事と菅原啓日本共産党国際委員会委員（日本 AALA の会員）の2人が、同会議のオブザーバー組織である AAPSO（アジア・アフリカ人民連帯機構）の代表団として参加しました。（詳細は4～6面）

（上）会場風景、（囲み）右から菅原啓・日本共産党国際委員会委員と小松崎栄・日本 AALA 代表理事

北朝鮮の相次ぐ核実験を糾弾 —6カ国会議の再開をめざせ—

9月9日、北朝鮮は5度目の核実験を強行しました。今年1月の核実験に続くもの。2月以来の連続した弾道ミサイル発射に続く今回の核実験の強行を日本 AALA 連帯委員会は糾弾するものです。

国連の作業部会は、「核兵器禁止条約」の締結に向け、交渉に入ることを決めています。8月に広島でひらかれた原水爆禁止世界大会は、「ヒバクシャ国際署名」を数億人規模で集めることを確認しました。北朝鮮の暴挙は、被爆国日本をはじめ世界の多くの国々の核兵器禁止を求める人びとに敵対するものです。

米韓は合同演習とともに高高度迎撃ミサイル配備など軍事的対応を強め、これにロシアと中国が反発するなど緊張がエスカレートしています。朝鮮半島の非核化と北東アジアの平和のためには、軍事ではなく話し合いでの解決が不可欠です。6カ国会議を直ちにひらき、話し合いをはじめることを求めます。

南シナ海情勢で話し合い解決へ前進 —ASEAN 首脳会議で—

ラオスの首都ビエンチャンでひらかれた東南アジア諸国連合（ASEAN）首脳会議は、9月7日、議長声明を発表しました。

声明は緊張する南シナ海問題について、中国の名指しを避けつつ「信頼と信用を損ない、緊張を高め、域内の平和と安全、安定を損ないかねない埋立てや活動の激化について、複数の首脳が示す懸念に留意する」と明記しました。また、常設仲裁裁判所の判決に触れずに「国連海洋条約を含む国際法による平和的紛争解決」を要求しました。

判決の後、情勢の悪化や ASEAN 内部の不団結が懸念されていましたが、ASEAN が団結して、中国に話し合い解決を約束させたことは重要です。

今後はこの約束通り関係国が「南シナ海行動規範（COC）」の締結に向け、対話や協議を進めることが求められます。今回、東南アジア友好協力条約（TAC）にチリ、エジプト、モロッコが正式加盟しました。



核兵器禁止条約の締結に向け 直ちに交渉開始を

原水爆禁止世界大会 2016

原水爆禁止世界大会は8月2日から広島・長崎で開催されました。機関紙9月号に引き続き、日本 AALA 常任理事・宮城 AALA 事務局長の小林立雄さんに大会の特徴、今後の運動の進め方などを報告していただきます。

8月2日から4日まで原水爆禁止2016年世界大会国際会議と、4日から6日まで世界大会広島が広島市で開かれました。5日間とおして参加し、全体会、分科会等で合計3回発言をおこない、内容をゆたかにすることができました。

今年の世界大会の特徴の1つは新・元国連上級代表がともに参加したことにもあらわれているように、「核兵器のない世界」に向けての扉を開こうとする新たな動きのなかで開会されたことです。それは、昨年の国連総会で核兵器禁止条約に向けての作業部会(OEWG)が設置され、2月、5月、8月と3回開かれて、秋の国連総会に報告を出すことになっているからです。

セルジオ・デュアルテ元国連軍縮上級代表は特別報告をおこない、「真の永続的安全保障は、核兵器がもはやこの地上のどこにも存在しなくなったときにはじめて達成されます。核兵器に依存して自国の安全保障を図ろうとする者たちの主張に立ち向かいましょう。私たちはみな、素晴らしい大義のために働くパートナーです」とすべての参加者とそれを支える市民社会の活動を激励しました。

もう1つの特徴は、ヒロシマ・ナガサキの被爆者が提唱する「ヒバクシャ国際署名」を全世界で数億人分以上集めて、核兵器のない世界への国際世論を高めようという、参加者の決意と意気込みに包まれた大会だったことです。

日本 AALA としても力を入れたい

非核・非同盟・中立の日本のため日本 AALA は、平和の共同体を目指しています。軍事同盟は中心に核兵器による抑止力・脅かしがあり、人類の生存を脅かしているとき、ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える「ヒバクシャ国際署名」は運動を前進させるうえで新しい突破口をつくり得るものであると考えていました。すでにいくつかの報告がされていました。

同時に日本 AALA が進めている「東アジアを不戦、平和、協力、繁栄の共同体に」する署名を進めるうえでベースになるものと考えます。非核・非同盟・中立を目指す日本 AALA としても力を入れたい、と発言しました。

科学的認識を持つ

同時に被爆二世で物理学を学んだものとして、核兵器と原発の関係や被曝について、科学にもとづいて解明しました。原発はもともと電気を起こすために開発されたのではなく核兵器の原料プルトニウムを製造する際に、原子炉の熱でお湯を沸かして発電して見せ、世界を欺いてきたこと、その証拠に核兵器をつくることのできないトリウム溶融塩炉型原発は研究が中断されてきたことを見る必要があります。

放射能による被曝には内部被曝と外部被曝があり、明確に区別して話を聞かないと騙されます。内

部被曝で怖いのは α 線（電気を帯びたヘリウム原子核）や β 線（電子）であり、透過力が弱いということは、被曝したところの周辺は原子分子レベルで見ると、細胞を壊滅の状態に追いやり、自分はエネルギーを失います。 γ 線の透過力が強いということは、周辺の物質と反応が弱いから自分のエネルギーを失いにくいので透過できることであり、内部被曝では優しいのですが外部被曝の際に問題となります。このようなことなどを話し、運動を進めるうえでの必要な文献も紹介しました。

アメリカ代表の発言

今年の世界大会にはじめて参加したアメリカの代表（ポール・マウイカ・マーティン氏＝ピース・アクションの政策・政治担当上級理事）は、冒頭で「我が国が71年前、ヒロシマ・ナガサキへ原爆投下したことを心からお詫びします」と言い、討論に加わりました。私は、昨年の春 NPT ニューヨーク行動のとりくみのとき、大きな横断幕に「日本の真珠湾攻撃をおわびします。平和活動は平和的手段で（キング牧師の言葉）。核兵器のない世界を」と英文で記したことがアメリカ市民に好意的に受け止められたことを思いだし、真の国際連帯はつらい過去の事実を率直に認め向き合い、公平な世界のための道を共同して探ることだと思いました。

残念なことに中国代表の姿はなし

今年の世界大会には中国の代表の姿が見られませんでした。核兵器問題について中国政府の姿勢が去年の NPT 会議、国連総会等で後退しているだけに、気になるころでした。（小林立雄）

世界を知り、連帯の力で平和の展望を開く 日本 AALA の存在意義を明確にして会員拡大にふみ出そう

先の参議院選挙では、広範な市民が「自分の意志」で行動する新しい運動が広がり、すべての一人区で歴史的な野党共闘が成立し 11 の選挙区で勝利するなど成果をあげました。同時に、自民党は当選者を減らしつつも、改憲勢力が議席の 3 分の 2 を占め、衆参ともに改憲発議が可能な状態になりました。首相は早速、改憲論議を前にすすめると表明し、8 月 3 日の内閣改造で、1 人を除いて首相以下全閣僚が「自主憲法」制定を掲げる右派政治団体・日本会議に所属する政権が生まれました。現行憲法を解体して国内では明治憲法的な体制を復元しつつ、対外的には米国への従属をいっそう深めて日米軍事同盟を強化し、自衛隊が世界中の戦争や紛争に加担する国にする危険な状況が作りだされています。

非核・非同盟、中立の日本を目指し、アジア、アフリカ、ラテンアメリカとの連帯運動をすすめる私たちは、この動きに正面から反対し、憲法 9 条にもとづく平和外交によってアジア諸国人民との信頼を深め、東アジアに平和の共同体つくるところこそ日本の進む道だと確信しています。そのたたかいをすすめるうえでとりわけ大事なことは、世界に目を向けその動向をしっかりと捉えることだと考えます。

いま世界では、米国の相対的な力は後退し、中国など新興諸国が経済でも政治でも大きな地歩を占める多極化への巨大な構造変化がすすんでいます。このなかで、失った覇権と市場の奪還をめざし、軍事的緊張を高めて軍備を増強し、テロを拡散・再生産しつつ、中東その他で戦争を長期化させるなどの逆流も生まれています。ベネズエラなどでは経済困難につけ込んで政権転覆を策し、また、内戦に介入して武力を行使し、双方に兵器を売って戦争を拡大、長期化させるなどの動きも顕著です。

しかし広い視野で世界をみれば、グローバル化がすすんで各国の相互依存関係がますます、多国間主義のもとで平和 5 原則とバンドン 10 原則が生きる非核・非同盟の地域共同体づくりが各地に広がっています。東南アジア諸国連合 (ASEAN) は昨年末、安全保障、経済、社会・文化の共同体を発足させました。米国がキューバとの国交回復に踏み切りました。軍事対応と新自由主義経済からの脱却をめざす動きが各地に生まれています。

ラテンアメリカ諸国のなかではこの十数年で、米国への従属からの脱却と格差是正が顕著にすすみました。リオ・オリンピックの開催地ブラジルは、ロンドン大会の 12 分の 1、北京の 20 分の 1 の予算で、平和と生命、地球環境を守るという明確な理念を打ち出して見事に成功させました。

日本を「戦争する国」にさせず、世界で最も先進的と言われる憲法が生きる社会をつくるためにたたかうことが本当の国際連帯になると思います。そして、このたたかいを生き生きと発信し、諸外国とりわけ AALA の人びとに知らせて交流・連帯をはかることがまた国内の平和運動を強めることになるでしょう。そのためには、世界と日本で起きている巨大な変化を分析し、その構造を捉え、世界における日本の位置や、国際情勢と日本の政治の関連を明らかにしてたたかいに生かすことが必要です。そして、これこそが日本 AALA が果たすべき役割と責任ではないでしょうか。7 月 26 日の理事会・常任理事会では、期せずしてこのことを強調する発言が相次ぎました。

いま情勢が日本 AALA に求めるものは、

1. 各分野の学者・研究者を日本 AALA に迎え入れ、その専門的知見を活かして、会員とともに情勢を深く分析し、世界と日本の構造を明らかにすること
2. その成果を講演や刊行物、電子メディアなどによって伝え普及すること
3. それらを旺盛に学習し、広くさまざまな分野での活動に、その成果を遺憾なく発揮すること

です。これこそが日本 AALA の存在意義であり、果たすべき役割です。

この事業の達成には現在の日本 AALA の組織力と財政力ではきわめて困難であり、いま以上に大きくすることが喫緊の課題となっています。

情勢が私たちに求めるものは「学習なくして活動の前進なし」であり、「組織拡大なくして理論的強化なし」です。

全国の会員のみなさんが精力的に会員をふやす取り組みにふみ出されんことを心からよびかけるものです。(事務局だより 32 号に掲載したアピールの一部を変更しました)

2016 年 9 月

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会
三役会

第17回非同盟諸国首脳会議

非同盟運動の先駆者の映像が見守るなかでの会議



議長・役員団（前列左から2人目 イランのロウハニ大統領 3人目 ベネズエラのマドゥロ大統領）

議長に就任したマドゥロベネズエラ大統領の「諸国民の幸福のために職務を遂行する」との開会の言葉に込められた会議の精神をうけ、参加者は山積する世界の諸課題について連日遅くまで熱心に討論を行い、最終日に「マルガリータ宣言」と「最終文書」を採択し、市民の喜びの舞の中で終わりました。

日本 AALA の両代表は論議を傾聴し、その合間を利用して手作りの二つの文書を利用して多くの国の代表と交流をしました。文書（英訳）は、①日本の米軍基地の実態、辺野古新基地建設の日米政府の動きと反対運動、「建白書」の紹介 ②日本 AALA の「東アジアの平和の共同体」提言や国際署名などです。

首脳会議終了後の19日から22日は、首都カラカス市に移動して政府関係者や現地の団体などと懇談・交流するとともに、ベネズエラの文化や歴史、庶民のくらしぶりを見て聞いて回りました。内外共に困難の中、非同盟運動の重要性を踏まえて、その発展による世界の平和と繁栄を願い国をあげた開催ときめ細かくて温かい運営にご尽力いただいたベネズエラ政府と国民の皆様方に敬意を表します。また、今回の参加と現地での行動については駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館に大変なご尽力をいただきましたことにお礼を申し上げます。なお、菅原代表の通訳により、めいっぱい活動できたことも付記します

非同盟運動、核兵器廃絶、パレスチナ、テロや貧困対策、国連改革などを論議

連日、夜遅くまで熱心な討論

一目立つ女性の発言

長方形に長い会場の壁面には、非同盟運動を切りひらいた先人の映像や非同盟諸国の旗が映し出されるなか、丸6日間、夜遅くまで討論を実施しました。ほとんどの参加国が発言し、その熱心さと積極的な内容に、しばしば共感の拍手も出ました。

非同盟運動の大切さ

前回の首脳会議の開催国のロウハニ大統領は「世界の現実の課題の解決には、非同盟運動は不可欠」と冒頭に述べました。ミャンマー代表は、バンドン精神が外交の基本方針であることや紛争の平和的解決を強調しましたが、多くの国がバンドン会議の精神、国連憲章の平和条項での団結が大切なことが強調されました。そのなかで、コロンビアの代表は対話の重要性を述べ、国内で平和の合意ができたことで社会変革が進むとし、ベネズエラに感謝の言葉を述べました。

パレスチナ代表からは、イスラエ

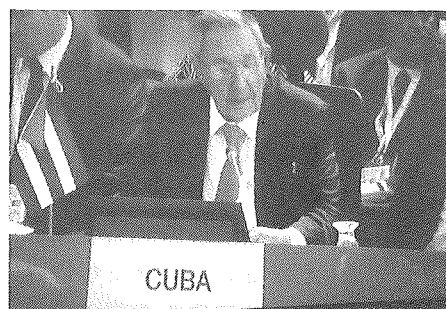
ルの非道な攻撃が紹介され、国際法と人道主義が選択的に適用されることがないように、非同盟諸国の支援を要請されました。これに対してブルネイ、マレーシアなど各国から連帯の発言もありました。日本 AALA がすすめている「パレスチナ国家承認」を求める方針の重要性を裏付けられました。

核兵器廃絶とテロ撲滅

北朝鮮の代表は、アメリカの攻撃からの抑止力として核兵器開発の正当性を強調しました。これに対してラオス代表の「核兵器のない世界の実現には、核兵器の全面禁止しかない」、ナムビア代表の「いかなる国の核兵器使用も威嚇も正当化しえない」などの発言があり、いくつもの国の代表から核兵器の早期廃絶を求める発言や非同盟諸国が果たす役割の大切さを強調する発言が出されました。また、根源に向けたテロ撲滅のとりくみなどについても各方面か



南アのマジバネ外相



キューバのカストロ議長

ら出されました。

感銘したのは、アフリカを中心に女性代表の発言が多く格調の高さでした。南アフリカ代表は「非同盟の創立の理念の大切さ」を強調し、世界の人びとの協力で南アのapartheidは終わったが、パレスチナや西サハラのような不正義、国際法の不平等な適用が残っていると指摘

し、「パレスチナなどに自由を」と訴えました。

新しい国際秩序を

多国籍企業など大企業の横暴をやめさせ、発展途上国の経済協力の促進策なども提言されました。キューバのカストロ議長は「大国が押し付けた国際経済秩序」の抜本改革を訴え、セネガルの代表も「国際平和のための新しい秩序」の必要性を述べました。

さらに、多くの代表がテロ撲滅と、特に差別や貧困など根源への対策の必要性を述べました。また、

非同盟運動の今後3年間のとりくみを示す「マルガリータ宣言」

これら6日間にわたる論議のあと、最終日の18日に首脳会議は「最終文書」と次回の首脳会議までの3年間のおもとりくみを掲げた21項目の「マルガリータ宣言」を採択しました。この全文は日本 AALA のHPに掲載する予定ですので、その一部の要旨を紹介します。

◆まず、第1「非同盟運動の強化と再活性化」では、加盟国の多様性と連帯の統一をベースにして、非同盟運動の団結、強化、再活性化を再確認しました。そして、第2「国際平和と安全保障の強化」、第3「民族自



会議の成功を祝い、喜びの舞を踊る人びと

ASEAN 諸国を中心に南シナ海問題の改善について少なくない発言がありました。

◆現在、私たちが強く要求している核兵器禁止条約交渉問題では、第4「軍備縮小と国際安全保障」の項で、「特定の時間枠の中で、核兵器の破壊を促す包括的な核兵器条約の交渉を緊急に開始することを要求する」としています。

◆第7「テロリズム」の項では、いかなるテロも平和と安全へのもっとも深刻な脅威だとしてテロを断固として糾弾するとともに、テロを特定の宗教、文明、民族集団と結びつけ

ないことの重要性を述べています。

◆パレスチナ問題は、第9「パレスチナ問題を含む中東の立場」で、東エルサレムを含むパレスチナ地域のイスラエルの占領が中東の不安定要因を構成するとして、国連総会や安全保障理事会の決議などに従うとともに、1967年以前の境界まで撤退すること要求しています。また、ガザを含め一連の入植地、集団懲罰、隔離壁などパレスチナ人民への無法行為を糾弾し、民族自決権と独立の正当な権利の否定だと断じるとともに、解決への非同盟諸国の努力をよびかけています。

◆また、前回の首脳会議でもとくに強調された国連改革については、第10「国連改革」の項で「国連総会の役割の回復の強化」「安全保障理事会に民主化と拡大」などが述べられていますが、さらに11の項で「国連の事務総長の選出と任命」を設けて、その選出にあたっては総会の中

心的役割を強調しています。

◆第12「平和維持活動（PKO）」の項は、前回の首脳会議の「テヘ

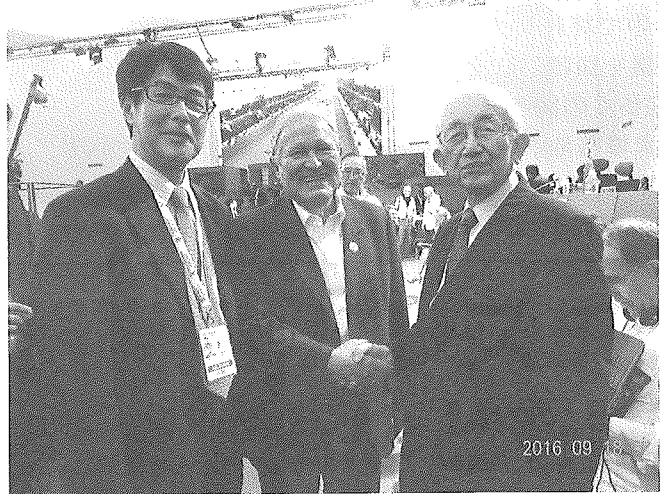
ラン宣言」にはないものです。ここでは、国連憲章の目的と精神に強く基づいて行われるべきとし、

特に「当事者の同意、公平性、自衛以外の武力の行使がPKOの成功には不可欠」としています。

各国の代表やベネズエラの政府・団体との交流・連帯活動



ベネズエラのエリアス・ハウア元副大統領と（おみやげもいただきました）



エルサルバドルのサンチェスセレン大統領と



「非同盟会議成功に青年もがんばった」と語る青年同盟の幹部。右端は23歳の最年少国会議員のペレス氏

日本 AALA の代表団は、この機会に多くの国の政府や団体の代表と交流と連帯をしました。

1. 首脳会議の会場で

代表団は2種類の資料を渡しながらか対話をしました。同時に大会役員にお願いして大会関係の各種のドキュメントを置く場所にも置かせていただきました。その資料はまたたく間になくなり、熱心に読んでいる政府代表の姿も見られました。対話をしたおもな方は、

- ・南アフリカ代表団
- ・ベネズエラ統一社会主義党（与党）元カラカス市長で故チャベス大統

- 領の盟友・フレディ・ベルナル氏
- ・エルサルバドルのサンチェスセレン大統領
- ・ボリビアのチョケワンカ外相
- ・ASEAN 議長国のラオスのキチャデト国際機関局長
- ・ミャンマーのサン・レビン大使兼常任代表（在ウイン）
- *他アルメニア、カザフスタンなど数カ国。

2. カラカス市で

カラカス市には19日の夜に移動し、22日の帰国直前まで交流と連帯活動をしました。駐日ベネズエラ大使館のご尽力により、政府の配慮

の下に懇談や視察など目いっぱい活動ができました。特に、お寿司が大好きとの青年同盟の幹部（国際問題コーディネーター）のショアン・ノヤさんが運転兼案内、また、若いママさんのルース・エスカラさんが2歳のお子さん連れで案内をしてくださるなど心のこもったものでした。日本 AALA として「日本 AALA とベネズエラの連帯」と題した資料や日本のマスコミなどのベネズエラの食糧危機やデモの報道写真なども用意して、両国の政治・経済などの事情やアジアや中南米の諸課題と対応など率直な話し合いをしました。おもな懇談者は

- ・エリアス・ハウア国会議員（元副大統領）
- ・レイナルド・ボリバル副大臣（アフリカ担当）
- ・青年同盟の役員と最年少国会議員のペレス氏（23歳）
- ・カマア国立子供心臓病院院長

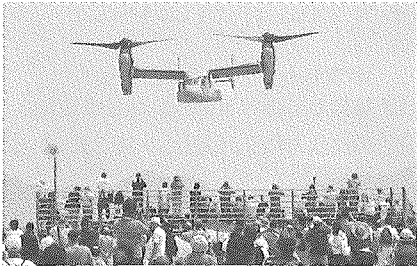
また、市民の暮らしや食糧事情、治安なども自分の目で見てきました。更に、故チャベス大統領の墓所を詣でるとともに、ボリバル関係の歴史施設などを見学しました。

元気です！



列島AALA

山口

米海兵隊岩国基地の山口で
AALAの運動を起こそう

「米軍再編」によって「極東最大の航空基地」になろうとしている米海兵隊岩国基地を押しつけられている山口県において、「世界を知って日本を変えよう」「東アジアに平和の共同体を」というAALAの運動の重要性が大いに増しています。しかし、それに応えうる組織状況になっていないというのが実情です。

そういうなかで、8月20日、山口市において第6回大会を開きました。大会の前に、会の外にも広く案内して、日本AALA 田中靖宏国際部長の「日本AALAの60年と今日の課題」と題する講演を聴きました。質疑は、おもにいまの中国の動向をどう見るかということになりましたが、「ああ、そうか」と「目からウロコ」でした。

しかし、残念ながら参加者は10人。もったいないことでした(ただし、1人入会あり)。

大会では、とにかく組織拡大を進めて、胸を張って「再建した」と言えるようにしよう(かつて毛沢東盲従グループに破壊され、2006年によく[再建]したことになるのははいましたが…)、そしてそのためにも「AALAならではの」楽しい活動を起こそうと

静岡

親睦深めながら活動継続

静岡県AALAは、役員体制を確立、会議の定例化も定着しています。AALAへの関心を高めることを目標にして、市民に広く呼びかけ定期的に学習会を開催してきました。今年の春にはアメリカとの国交回復をしたキューバの情勢について、新藤通弘先生に講演をしていただきました。この秋も開催する予定です。

9月下旬に日朝協会が東海ブロック交流集會を静岡で開催することになり、静岡県AALAに応援の要請がありました。日中協会の静岡支部とも協賛、開催することになりました。共通する課題も多いことから、議論に参加する意

意思統一しました。昨年岩国で、“cafe YMGC AALA”と称して、教科書問題にとりくんでいる会員が「従軍慰安婦と教科書問題」について報告し、韓国出身のハンデル語講師の女性の指導で韓国料理をつくって食べながら交流するというささやかな集いを持ち、17人の参加で2人入会という成果がありました。このようなとりくみを各地域で起こしていこう、という決意を固めています。

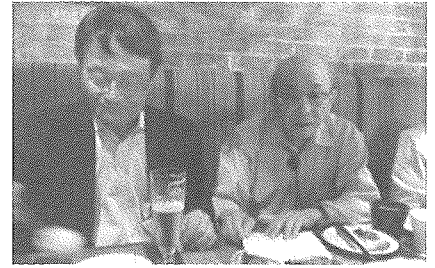
(理事長 吉岡光則)

兵庫

若者の関心事に応え
学習講演会を

4年ぶりに開催した昨年の総会で、小松崎代表理事の「東アジア共同体と日本AALAの歴史」と題して講演会が弾みとなって、もっとアジアのことを知りたいという声が理事のなかからおこり、「戦争するな!どの国も」署名推進にと、「アジア連続5回講座」(延122人、会員2人増)が成功しました。

16年の戦争法廃止の運動を広げるために講演会の内容を討論するなかで、新たに総会で理事に選ばれた2人の青年理事から、「青



年は大きいかと期待しています。

親睦を深めることも重視し、会員外にも呼びかけ「エスニック料理を楽しむ会」を開いてきました。タイ料理、ベトナム料理、スペイン料理、韓国料理などその国のお酒も味わいながら結びつきを強めてきました。

これらの活動を通じて会員を増やすとりくみを真剣に追求していこうと討論しています。

(理事長 寺尾 昭)



年の関心事」に応える内容という意見を尊重して、具体化しました。16年2月「ISとテロ解決の展望」(100人参加、1人増)、4月「ミャンマーの民主化と今後」(35人)、9月4日「ジプチ学習会&総会」(50人、2人)と開きました。日本AALAラオスツアーは「県代表に19才の大学生」とを青年理事から推薦があり、9月の総会ではこの大学生も理事に決まりました。

再建から1年半、理事会の定期開催、機関紙兵庫県版の隔月発行、会費の6カ月に1回の請求など努力してきました。総会では1962年結成以来の「規約改正」もおこない、青年会費は柔軟に配慮することにしました。日本AALAの組織方針「人口1万人に1人の会員」(550人)めざし、当面再建前の130人を早期に回復しようと歩みがはじまったところです。

(事務局長 井村弘子)



日本 AALA は、未曾有の経済危機の中で外国の干渉・圧力に抗して自主的に民主的な国づくりをめざすベネズエラ国民との連帯・友好を進めています。「ベネズエラ音楽の夕べ」を、会員のみなさんをはじめ、多くの市民の方のご参加でベネズエラの演奏会を成功させましょう。

ベネズエラ音楽の夕べ

チェオ・ウルタード デュオ演奏会

大阪会場

11/9 (水)・阿倍野区民小ホール
17:00 開場 18:00 開演 20:00 終了
参加費 2500円
申込・問い合わせ
大阪 AALA 06-6768-5360

東京会場

11/15 (火)・国分寺市 いずみホール
17:45 開場 18:30 開演 20:30 終了
参加費 2500円
申込・問い合わせ
日本 AALA 03-5363-3470

お知らせ

- 10/13 (木)
日本 AALA インド問題講演会
(全国教育文化会館)
- 10/17(月)～10/23 (日)
アジア・アフリカ人民連帯機構総会
(モロッコ)
- 10/22 (土)、23 (日)
日本平和大会
(青森県三沢市)

くらしに



とコーヒータイム

暮れのごあいさつの準備
お歳暮にギフトセットを

- 11/1 より配送受付開始
- 12/1 より配送開始

ご注文

■工場直通 FAX (049) 254-8158 / TEL (049) 254-6241
■日本 AALA ホームページ <http://www.japan-aala.org/>

オスパールコーヒー

ギフトセットのコーヒーが
全17種類から選べるようになりました
3品セット: 3,370円 / 6品セット: 6,290円
たとえば、*基本3品: マラゴジペ / キリマンジャロ / プレンド *基本6品: 3品+マン
デリン / ブラジル / コロンビア

わたしと

84



AALA

北海道AALA理事長
伊藤 憲夫

“100年に1回”あるかないか というたたかに関わった喜び

私は1965年、創立間もない北海道 AALA (以下、道 AALA) に加入しました。ベトナム戦争の最中です。当時、北大の大学院生で、ベトナムの学習会をやりたいたと AALA に相談に行き、私も虜になってしまいました。

最初の活動は、65年8月にベトナム文化代表団を迎えた集会でした。道 AALA は実行委員会の事

務局を担当、北大の体育館を満杯(3000人)にしました。以来“ベトナム侵略反対、ベトナム人民支援”の旗を高く掲げ、講演会、ベトナム展、支援カンパ活動に全力をあげ、組織を大きくし、道内に支部・班を作っていました。ベトナム人民は75年にアメリカを打ち破りました。大国アメリカは史上初めて敗北したのでした。

また道 AALA は70年代半ばからアパルトヘイト廃絶に取り組みました。国連東京事務所から資料やフィルムを提供していただき、職場で無数の集会を開きました。80年代には、3回にわたって“反アパルトヘイト・キャンペーン”を展開、ANC 歌舞団アマンドラ公演(90年)や南アフリカ訪問(91年)を成功させました。300年以上続いた“人道に対する犯罪”アパル

トヘイト体制は、1994年ついに崩壊し、マンデラ政権が誕生します。

「ベトナム」も「アパルトヘイト」も、100年に1回あるかないかという世界史に残るできごとです。そこに照準を合わせて活動したことが、人々の心をとらえ、運動を発展させることができたのだと思います。北海道では、多くの「ベトナム」会員、「アパルトヘイト」会員が生まれ、いまでも各方面で活躍し、また AALA を支えています。

私の会員歴は51年、77年の人生のちょうど3分の2に当たります。私は、AALA の会員としてこれらのたたかに関わることができたことを大変うれしく、誇りに思います。

“世界を知って日本を変えよう”、今度は日本を変える番です。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA
SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第33 宮庭ビル 4 階
電話: 03 (5363) 3470 HomePage <http://www.japan-aala.org/>
FAX: 03 (3357) 6255 E-mail: info@japan-aala.org
振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行1部150円(送料62円)